

津大豆ニュース ～平成 29 年産第 1 報～

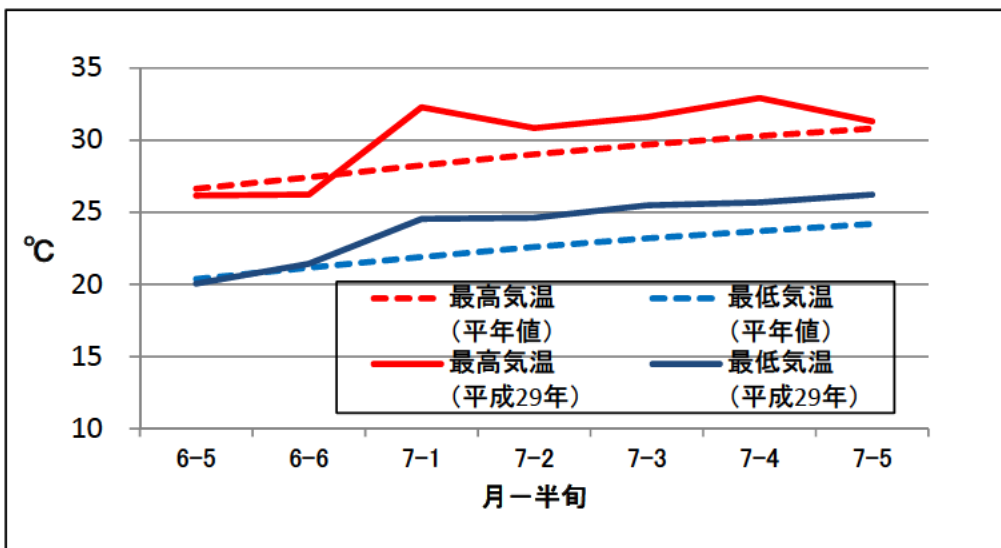
平成 29 年 7 月 31 日

津地域農業改良普及センター TEL : 059-223-5103

気象経過

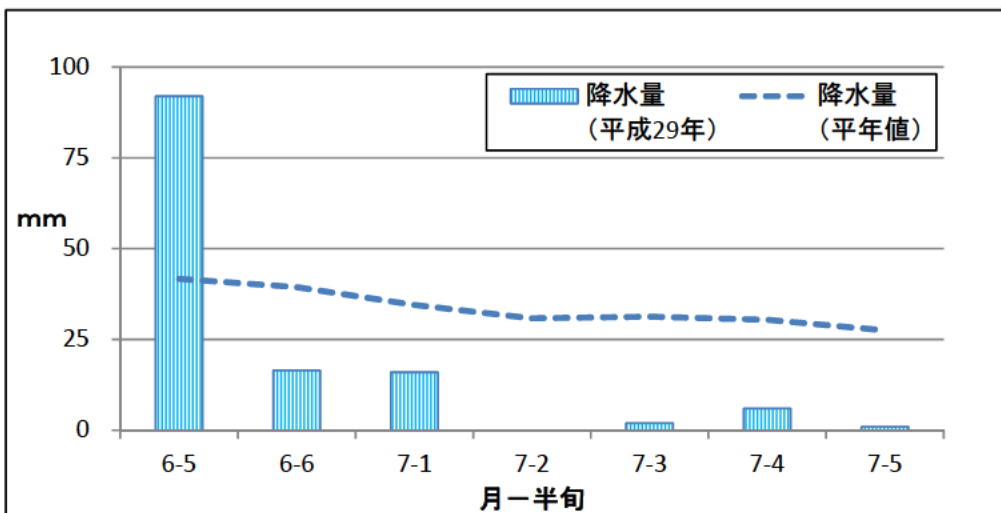
気温

6 月下旬は平年並みの気温でしたが、7 月以降は最高気温、最低気温とも平年より高く推移しました。



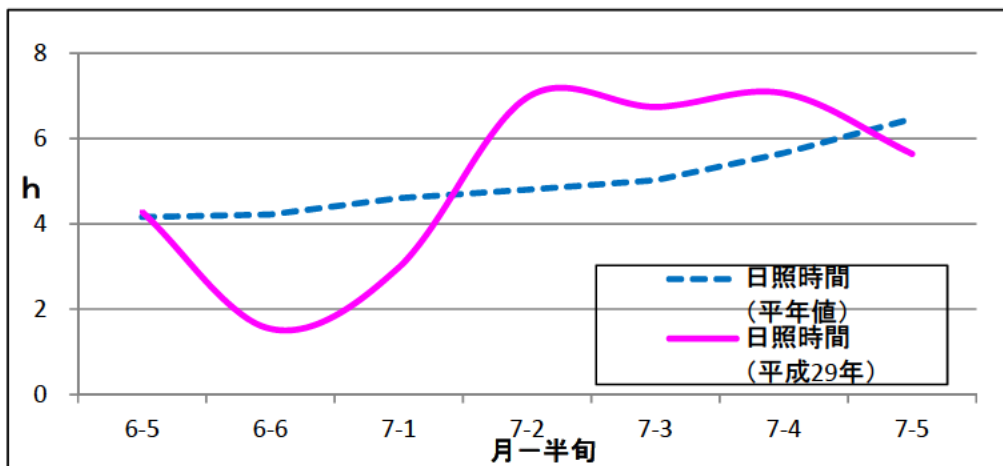
降水量

6 月 5 半旬にまとまった降水量がありましたが、梅雨入り以降、局地的な降雨に止まり、全体的には少雨となっています。7 月 19 日に梅雨明けしたとみられます。



日照時間

6月下旬は曇天日が多く日照時間は平年を下回りましたが、7月以降晴天の日が多かったことから、平年を大きく上回っています。



生育状況

播種

管内の播種は6月末から始まり、降雨量が少なかったため、播種作業は順調に進んでいます。

生育状況

湿害対策（明渠、成畦播種等）が行われているところは、降雨も少なかったこともあり、出芽・苗立ちは良好です。しかし、小麦収穫時の轍への停滞水、用水路からの水漏れがあるところでは、部分的な出芽不良のところも見受けられます。

また、生育が進んだところは、順次、中耕培土作業も進められています。

雑草発生状況

一部で、帰化アサガオ類等が蔓延しており、除草剤散布等緊急の対応が必要となっています。

病虫害発生状況

現在のところ、目立った病虫害の発生はありません。今後、稲刈りの進行とともに、カメムシ類が大豆に移ることが予想されます。

今後の管理

雑草管理

帰化アサガオ類、ホオズキ類等の強害雑草の発生が増加しています。これらの雑草は生育旺盛で、大豆を覆い生育を著しく阻害します。また、収穫の際に子実が汚れたり、収穫物に雑草種子が混入して品質低下等の原因となりますので、早期の雑草防除が重要です。特に、大豆が株間・畝間を覆うまでは、発生に注意が必要です。

＜雑草防除対策＞ ～体系防除が効果的です～

- ① 土壌処理・・・エコトップ乳剤等
- ② 雑草茎葉散布・・・大豆バサグラン液剤(※)等
- ③ 中耕培土
- ④ 畝間処理（吊り下げノズル等を使用）・・・バスタ液剤等

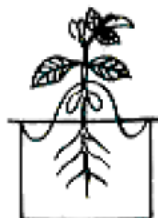
※大豆バサグラン液剤は薬害を発生する場合がありますので注意が必要です。

病害虫対策

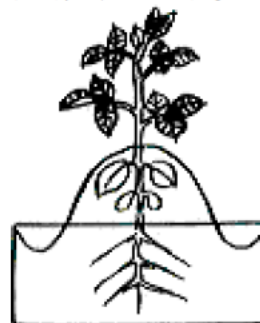
ほ場において、今後吸汁性カメムシ類およびハスモンヨトウの発生が増加することが予想されます。吸汁性カメムシ類は大豆の子実を吸汁し、奇形粒の発生や不稔等の原因となり、減収につながります。被害は、適期に薬剤散布による防除を行うことで抑えられます（9月中旬と10月上旬の2回防除を行うと効果的です）。ハスモンヨトウは白変葉の発生に注意し、若齢幼虫のうちに薬剤防除を行いましょう。

中耕培土

中耕培土は、本葉2～3葉が展開したときに、逆転ロータリーを条間にかけることで雑草の初期発生がおさえられます。中耕培土は雑草防除、排水性の向上、根の活性化、倒伏防止に効果があります。開花までに2回以上行うと効果的です。



1回目：播種後15～20日
（本葉2～3葉期）



2回目：は播種後22日～27日
（本葉4～5葉期）

畦間かん水

開花期以降、要水量が大きく、この時期に乾燥が続くと落花、落莢の発生が増加し、収穫時の青立ちを助長し、収量・品質が低下するので、干ばつ時（葉が40～50%裏返った時）には、朝夕の涼しい時間帯に畝間かん水を行いましょう（開花期から子実肥大が終わるまで約40日間）。

生育予測

大豆生育予測 【平成29年7月27日現在】

| 品種 | 播種日 | 開花期 (平年との差) |
|-------|-------|----------------|
| フクユタカ | 7月1日 | 8月18日 (1.3日早い) |
| | 7月15日 | 8月27日 (0.4日早い) |

三重県農業研究所作成の生育予測システムVer9.2による予測です。
気象庁アメダス津観測地点データ(直近10ヶ年の平均気温)を使用しています。